

第3期『耕人塾』での人材育成と地域貢献

木村 民男・田中 秀典

Cultivation of Human Resources and Regional Contribution by the 3rd Period of "Kojin-juku" Activities

Tamio KIMURA and Hidenori TANAKA

*Department of Human Education, Faculty of Human Studies, Ishinomaki Senshu
University, Ishinomaki 986-8580*

I はじめに

1 平成25年度第2期『耕人塾』の成果と課題

(1) 成果

- ① 延べ19名の多様な講師陣を招聘することができ、充実した研修になった。塾生の講話を聴く態度が身に付き、メモの取り方や自分の考えをまとめる力が格段に向上した。また、班内の討議はリーダーを中心に活発に行われ、班としてのまとまりができ、班ごとの発表では積極的に挙手をし、説得力のある話し方ができるようになった。
- ② 指導者が16名に増え、各研修の役割を分担して積極的な取り組みをしてくれた。特に、若手教員がベテラン教員に学びながら、塾生の指導に当たることによって指導者自身の成長につながった。また、指導補助員の大学生は、準備や塾生への助言に当たることによって人間的な成長につながった。

(2) 課題

- ① 講話による一斉の活動が多かったので、塾生が主体的に活動する場面が少なかった。今後は班ごとのテーマを設定して実践活動などを重視するなど、「人間力」を身に付けるための具体的な研修内容を工夫する必要がある。
- ② 指導補助員としての大学生の塾生への関わりをさらに工夫する必要がある。

2 平成26年度のテーマと方針

平成25年度の成果と課題を踏まえ、テーマ「世界に誇れる石巻をつくろう」とし、塾生の主体的な実践活動も取り入れていくこととした。

II 平成26年度第3期『耕人塾』の活動

1 実施要項

(1) 趣旨

石巻地域の中・高校生の「人間力」を磨き、地域や社会に貢献する人材を育成するために、塾生の主体的活動を重視し、新生『耕人塾』としてさらに進化させたい。

(2) 指導指針

- ① 社会貢献への高い「志」を持たせ、討論や実践活動をとおして、「人間力」を向上させる。
- ② 「文・武・楽・三・道（学問・武道・スポーツや趣味）」の体験をとおして、人間的な幅と深さを身に付けさせる。
- ③ 日本の伝統文化を体験させ、自然や郷土を愛する心を育て、礼儀作法を身に付けさせる。

第3期『耕人塾』での人材育成と地域貢献

(3) 活動方針

- ① 高い志を持ったリーダー育成を目指す。
- ② 地域に学び、地域や社会に貢献する人材育成を目指す。
- ③ 塾生の主体的な考えを生かした実践活動を取り入れる。
- ④ 中・高校生のみならず大学生や市民の学びの場とする。

(4) 活動内容

- ① 中・高校生及び大学生を3～5人の班に分け、指導者も塾生と一緒に活動する。
- ② 班ごとのリーダー（班長）を選出し、指導者を中心に班活動を重視する。
- ③ 年間11回の活動とし、課題解決の活動や講話研修等を行い、発表の場を設ける。
- ④ 8月に1泊2日の宿泊研修を実施し、自然体験やレクリエーションなどを取り入れる。
- ⑤ 塾生の主体性・自主性を重視し、負荷をかけた体験等も取り入れて達成感のある活動とする。

(5) 日時・場所

- ① 毎月1回（第3土曜日）18：30～20：30実施を基本とする。日程等は別に定める。
- ② 研修場所は主として石巻専修大学とする。
- ③ 宿泊研修やイベント参加は別途計画する。

(6) 対象及び定員

- ① リーダーとしての「志」を持ち、参加意欲の高い石巻地域の中・高校生とする。
- ② ポスター及び声掛けによって塾生を募る。
- ③ 大学生及び若手教員や市民にも参加を呼び掛ける。定員は30名程度とする。

(7) その他

- ① 服装は場や活動内容に相応しい服装とし、学習用具は各自持参する。
- ② 出欠は各自の判断とするが、欠席の場合は必ず班長へ連絡する。
- ③ 保険に加入し、活動時の安全には十分留意するが、通塾等は保護者の責任で送迎する。

2 年間活動計画

回	月/日	主 活 動	活 動 内 容	担当者等
1	5/17 (土)	・統一テーマ「世界に誇れる石巻をつくろう」	・塾長あいさつ、自己紹介、活動計画、班分け・班ごとテーマの決定、活動計画	指導委員長 他全員
2	6/21 (土)	・班ごとテーマのまとめ	・班活動	各班の主担 当中心
3	7/19 (土)	・班毎テーマのまとめと実践活動の 中間発表	・班活動	各班の主担 当中心
4 5	5月～ 8月	・班毎調査や実践活動	・「挨拶・清掃・ゴミ拾い」運動を広めよう ・世界に誇れる川開き祭にしよう	各班で自主 活動を行う
6	8/16 (土)	・宿泊研修（研修のまとめ）会場： （コロボックルハウス）	・自然体験・班毎実践活動のまとめ	指導委員長 他全員
7	8/17 (日)	・宿泊研修（成果の発表）会場： （コロボックルハウス）	・奉仕活動・班毎実践活動の発表	指導委員長 他全員
8	9/20 (土)	・講話「国際社会」 講師：本田美希子氏		各班の主担 当中心
9	10/18 (土)	・体験「スポーツ」 講師：志小田美弘氏		各班の主担 当中心
10	11/15 (土)	・体験「日本の伝統文化（茶道）」 講師：石田邦子氏		各班の主担 当中心
11	12/20 (土)	・平成26年度のまとめと発表・第 3期修了証授与		指導委員長 他全員

3 各研修活動

(1) 平成 26 年度 第 1 回 『耕人塾』

〔日 時〕 平成 26 年 5 月 17 日 (土) 18:30~20:30

〔場 所〕 石巻専修大学 2 号館 2 階 2205、2206 教室

〔テーマ〕 世界に誇れる石巻をつくろう 1

〔活動内容〕

○ 開会の挨拶、講話 (木村塾長)

指導指針である「社会貢献への高い志を持たせ、討論や実践活動を通して、人間力を向上させる」「文・武・楽 (学問・武道・スポーツや趣味) の体験を通して、人間的な幅と深さを身に付けさせる」「日本の伝統文化を体験させ、自然や郷土を愛する心を育て、礼儀作法を身に付けさせる」の 3 点について、具体例を挙げながら講話した。また、「世の中や人のために動ける人になろう」激励し、大人の考えをはるかに超えるアイディアを出してくれることを期待した。

○ 活動計画とテーマ学習の進め方、心構え (平塚指導委員長)

『耕人塾』の目的について具体的な例を挙げて説明

○ アイスブレイキング (稲辺指導副委員長)

少し緊張気味の塾生を和ませるため、名前を覚えるなどの活動を通して互いが親近感を覚え、仲間で力を合わせることの大切さについて、ゲームを通して実感させる。



(2) 平成 26 年度 第 2 回 『耕人塾』

〔日 時〕 平成 26 年 6 月 21 日 (土) 18:30~20:30

〔場 所〕 石巻専修大学 2 号館 2 階 2206 教室

〔テーマ〕 世界に誇れる石巻をつくろう 2

〔活動内容〕

○ 開会の挨拶、ショート講話 (木村塾長)

新渡戸稲造は「われ太平洋の橋とならん」という志を一生涯貫いたことに触れ、以下 2 つのことを話した。「新渡戸の名著『武士道』から日本人の考え方や善悪の観念、行動規範、惻隠の情等について」「人に感動を与え、人の心を動かすのは足下の小さなことを実行することが大切であること」

○ アイスブレイキング (稲辺指導副委員長)

名刺交換をして、早く名前と顔を一致させよう！

○ 班別討議に当たって (平塚指導委員長)

日本の小・中・高校生は、掃除をするのが当たり前であるが、界では少数派である。自分たちの間では当たり前のことも、他の人や他の国から見ると“よさ”と映る場合もある。日本人として長年培ってきた文化にも着眼して、石巻のよさを発信してほしい。

○ 班別討議 (塾生の中高生に、指導補助員の大学生、指導委員の先生方が加わる)

<各グループからの発表>

- ・人がたくさん集まる『川開き』の清掃活動を行う。この活動で



第3期『耕人塾』での人材育成と地域貢献

感じたことをHPに立ち上げ世界に発信したい。

- 「地元や周りの人にもっと石巻を好きになってもらいたい」を最終ゴールにする。活動目的に添うよう人目のつく場所を清掃する。綺麗になった浜辺で石巻の海をPRしたい。
- 川開きの当日、駅前通りであいさつを行う。挨拶をしながら、パンフレットを配り、歴史や伝統について伝える。さらに、祭りを終えた後に、清掃活動を行う。石巻をよくするためという目的を見失わず、次に生きる活動を目指す。
- まず、自分たちが、石巻のよさを知ろうということで、



各々が意見を出し合った。結構な数である。ぜひ、周りの人や学校の友達にも聞くともっとよさが出てくるであろう。それらを含めて、石巻のよさを知ったうえで、より多くの周りの人に、ポスターなどを使って発信していきたい。できることから小さな一歩を踏み出したい。次回までにもう一度班で話し合い、テーマを決めたい。

(3) 平成26年度 第3回 『耕人塾』

〔日 時〕 平成26年7月19日(土) 18:30~20:30

〔場 所〕 石巻専修大学2号館 2階 2206教室

〔テーマ〕 世界に誇れる石巻をつくろう3

〔活動内容〕

○ 開会の挨拶、ショート講話(木村塾長)

- 教室に入るときには、ぜひ大きなあいさつで入ってきてほしい。あいさつは、心を開く。
- 一日一日を大切に一生懸命大事に過ごしてほしい。
- みんなを支えている多くの人がいることにぜひ気づいてほしい。
- 塾長の考えをはるかに超えることにぜひ挑戦してほしい。

○ アイスブレイキング(稲辺指導副委員長) 【黒魔術&白魔術?】

○ 班別討議に当たって(平塚指導委員長)

- 班ごとに課題をもって集まっているし、すでにアクションを起こして、次への課題を生み出している班もある。
- 宿泊研修までに形にすることにこだわらずに進めてほしい。
- 班ごとの進捗状況と本日のめあて(各班)

○ 班別討議(塾生の中高生に、指導補助員の大学生、指導委員の先生方も加わる)

○ 全体学習(各班の発表)



(4) 平成 26 年度 第 4～5 回 『耕人塾』

【概 要】 ※班ごとの調査や実践活動 (5 月～8 月)

<1 班 班活動 実践報告>

1 実施日 2014 年 8 月 24 日 (日) 9:30～14:30

2 参加のきっかけ 1 班の班活動のねらいは「地元石巻のイベントに参加しながら、石巻を盛り上げ、石巻の良さをアピールしたい」である。そこで、石巻にしながら、あまり馴染みのなかった『トリコローレ音楽祭』というイベントで、自分たちのできないかを考え、参加することになった。

3 活動内容

(1) 前の PR 活動 (個人) 『トリコローレ音楽祭』事務局から塾生一人につき、ポスターを 2 部ずついただいた。自分たちと同世代を呼び込みたいという願いもあり、自分の学校や駅などに一言コメントを添えて貼った。

(2) 当日の活動 (グループ全員) 事務局の方との打合せから、会場が 12ヶ所にも分かれていることから、メインの A ステージ (石巻駅前にぎわい広場)、C ステージ (石巻立町復興ふれあい商店街)、D ステージ (リオモールパーキング) に分かれて、各会場の手伝いを行った。A ステージではメインでもあることから人通りも多く、当音楽祭のパンフレットを挨拶をしながら配った。C、D ステージでは、歩道に人通りがあっても、なかなか会場へ入ることはなく、歩道に出て、宣伝の一言も添えながらパンフレットを配った。自分から挨拶をしたり、配っても断られたりすることもあり、始めは難しさも感じていたが、「イベントに参加してほしい」という強い願いもあり、積極的に声を掛けながらパンフレットを配る姿が見られた。その他にも、演奏前の紹介アナウンスや募金のお願いのアナウンスなども担当し、自分たちのできないかを考え、自主的に活動していた。



耕人塾 1 班副担当 石巻市立二俣小学校 教諭 本田 美希子

< 2 班 班活動 実践報告と今後の予定 >

1. ねらい

2 班は、「復興の恩返しをしよう！人との関わりや繋がりを大切にしよう！」というねらいの下、地域で一番大きなお祭りである「川開き祭り」に来た人たちに綺麗な石巻をアピールしよう、気持ちよくお祭りを楽しんでもらおうという趣旨の下 2 回に分けて清掃活動を行った。綺麗な状態で観光客の方をお迎えすることにより、感謝の気持ちを表すとともに、綺麗な石巻を発進しようという目的で活動した。

2. 実施日
- | | |
|---------------------|-----------|
| 平成 26 年 7 月 27 日（日） | 8：30～9：00 |
| 平成 26 年 8 月 2 日（土） | 6：00～7：00 |

3. 活動の記録

(1) 7 月 27 日（日）8：30～9：00

石巻駅周辺

石巻駅周辺のゴミ拾い活動を行った。思ったよりもゴミが多く、準備したゴミ袋はあっという間にいっぱいになった。中でもたばこの吸い殻と空き缶が多かった。綺麗な石巻にしようという想いから、ゴミ拾い活動にとどまらず雑草も抜くなど主体的な取組が見られた。2 回目の活動も当初は 30 分の予定だったが、「30 分では足りない。」という声が上がリ、1 時間活動することになった。塾生の頑張りが随所で見られた活動になった。



(2) 8 月 2 日（土）

6：00-7：00

住吉神社-内海橋周辺

川開き祭りの翌日の朝 6 時から、3 班と合同で 2 回目のゴミ拾い活動を行った。前回よりもゴミが多く、終了予定時間になってもなお活動した。

「食べた後等に出る、ゴミの処理の仕方や喫煙者のマナーについてなど、今後意識を変えていく必要があるのではないか。」といった、意見が出された。



4. 今後の活動について

2 回のゴミ拾い活動を終えて、今後も継続してゴミ拾い活動を続けていきたいという意見が班の中で出た。10 月から 3 ヶ月間、月 1 回ゴミ拾い活動を継続していくことになった。

< 次回の活動 >

- ・ 期日 : 平成 26 年 10 月 12 日（日）8：00～9：00
- ・ 場所 : 石巻駅周辺-立町通り

耕人塾 2 班 主担当 石巻市立蛇田中学校 教諭 畠中 隆廣

< 3 班 班活動 実践報告 >

3 班は、石巻のいいところをもっと多くの人に知ってもらいたいとの思いから、川開き祭りで自分たちにできることをしようと考え、二つの活動を企画・実践した。

一つ目の実践活動は、7 / 3 1（木）に行った川開き祭りをアピールするためのリーフレット配布である。夕方 6 時から、駅前で作りのリーフレット 1 5 0 部を配布した。実際に活動してみると、恥ずかしさが先に立ってなかなか積極的に配れなかったり、勇気を出して渡しに行っても受け取ってもらえなかったりと、想像していた以上に大変な活動だということを実感することができた。それでも、予定していた 3 0 分という時間で全て配り終えることができ、塾生の頑張りを感ずることができた。月に 1 度という限られた活動の時間の中で記事の内容決めや役割分担等を行い、頑張って作成したオリジナルリーフレット。作成にあたっては、川開き実行委員会に電話をかけて花火大会のアナウンスをしている方のインタビューを記事にするといった工夫も見られた。来年度、さらに工夫を加えたリーフレットを作成、配布し、川開き祭りを盛り上げるための力になればいいなと思っている。



二つ目の実践活動は、8 / 2（土）のごみ拾いである。前日の川開き祭りで汚れた街中をきれいにしようと、2 班と合同で行った。朝 6 時から 1 時間の予定で活動を始めたが、思ったよりもごみが多く、予定時間を超えて活動した。後日、活動の振り返りを行ったところ、「ごみ捨て場をもっと増やした方がいい」「ごみのポイ捨てをしないような呼び掛けが必要」といった現状を改善するための前向きな意見が出された。今後、日常的にごみ拾い活動を行っていく方向で検討しているところである。



< 4 班 班活動 実践報告と今後の予定 >

【4 班の目的】

「世界に誇れる石巻をつくろう」のテーマのもと、『立町商店街の手作りMAPを作成し、県外や地元の人たちに石巻のよさをPRする。』

【活動の記録】

(4月) テーマに即した4班の課題を何にするかという話し合いをもった。「ごみ拾い」「挨拶」等昨年度の耕人塾での取組を参考にした意見が出された。しかし、班員の思いとして「石巻のよさをPRしたい」ということが挙げられたため、それを4班の活動の柱にしていこうということで課題が決定した。

(5月)「石巻のよさをPRするために、どんな方法をとるか」という主旨の話し合いがもたれたが、なかなか進まなかった。そこでまずは「石巻のよさとは一体何なのか、自分たち自身が体感しよう。自分たちの足で調べよう。」ということで方向性が具体的にになってきた。

(6、7、8月) 調査場所としては立町商店街アーケード周辺にスポットをあてることにした。元々、石巻の中心地であったことや歴史的・文化的にも価値のある地であること。そして何よりも「川開き祭り以外には足を運ばない。」という現状を打開していかなければならないという思いがあった。この時期、「未来サポート石巻」を紹介していただき、栃木県の高校生との交流会の話をいただいた。4班としては8月23日の交流会に向けて次の様な段取りをとった。

- ・4班での実地踏査を行い、自分たちが同世代の人たち、県外の人たち、石巻に昔から住んでいる人たちに対してPRしたい店や文化遺産等をピックアップした。

- ・震災後、石巻を支援してくれている団体の活動場所も回り、23日の「栃木県の高校生との町歩き」の際に説明しようということを確認した。

- ・「子どもセンターらいつ」に班の活動の主旨を伝え、23日の交流会の会場提供の依頼もと付けた。

- ・8月16、17日の耕人塾宿泊研修にて、手作りの「立町MAP」を作成した。

(8月23日交流会)

A、B2つのグループに分かれて「立町商店街の町歩き」「ディスカッション形式の交流会」というプログラムを実施した。(途中でA、Bチームは交代した)町歩きの際には石巻市役所1階の「石巻カフェ」「(かぎかつこ)」にも行き、お話をいただいた。

2時間弱という短い時間ではあったが、自分たちの活動の中間のまとめとしての場とすることができた。



【活動の成果と今後の予定】

(成果)

- ・設定した課題を解決するためには、自分たち自身の課題(知らないこと)も明確にしていかなければならないことを感じる事ができた。
- ・課題の解決方法を班単位で考えることができた。
- ・課題解決の難しさと班で活動する楽しさを実感できた。
- ・耕人塾として、県外の高校生や石巻の団体との関係(パイプ)を増やせた。

(成果と今後の予定)

- ・班の活動の成果を、手作りパンフレットという形に仕上げられそうなこと。今後は完成を目指し、継続して班活動を続けていく。また、どんな場所に置いてもらうか、そのようにして活用してもらうかといった視点で話し合いをもつ予定である。

耕人塾4班 主担当 石巻市立鹿妻小学校 教諭 須田 佑介

- (5) 平成 26 年度 第 6-7 回 『耕人塾』(宿泊研修)
[日 時] 平成 26 年 8 月 16 日(土)・17 日(日)
[場 所] コロボックルハウス(石巻市北村字蛇ヶ沢)
[テーマ] 世界に誇れる石巻をつくろう
[活動内容]



宿泊研修 1 日目の活動

○ 開講式 塾長挨拶

「楽しみながら何かを得る」「悪い状況の中でも工夫して楽しむ」「自分たちで創り上げていく」等々。

○ 創作劇に挑戦しよう『同窓会ごっこ』

当初、一日目の午前に予定していたパークゴルフは全面クローズとなり、“同窓会ごっこ”という寸劇に挑戦した。表現力(言葉や身体)を高めるとともに班の構成員の絆を深める目的で行われた。わずかの時間ではあったが、以下のような手順を踏み、塾生にイメージを膨らませながら、将来の石巻の理想的な姿を創造しながらシナリオを作り上げていった。

1. 将来の夢を紹介し、キャラクターを設定しよう。
2. ストーリーを考えよう。
3. おおまかな自分のセリフとメンバーのセリフを確認して、通してみよう。
4. いよいよ動きをつけよう。
5. 通し稽古をしてみよう。



○ 班別活動 1

午後からは、今年度前期、班ごとに実践的に活動してきましたことについて、翌日の発表に備えて内容ばかりではなく発表の仕方にも工夫を凝らした相談がなされた。



○ 夕食準備・夕食

夕食は、自作のカレーライスである。「いかにおいしく」「いかにゴミ等を出さないか」の2点を目標にして、合同チームの二班で競い合った。水の量が多すぎて途中ボールいっぱい水分を戻し、カレーのルーも買い足しに行って、何とかカレーらしくなり、味も満足のいくものになった。料理を作る途中で塾生同士の和やかな会話があちらこちらで見られたのは昨年と違った動きで、午前中の班活動が功を奏したのだと思う。ごはん・ルーともにもう一食分あるとの判断から、急遽、翌朝もカレーライスに決定した。自分の畑で作られた大きなスイカを差し入れてくれた中鉢先生のデザートをおいしくいただき、夜食には若生先生の奥様から差し入れのミスタードーナツも配られた。



○ 講話 「日本の伝統文化と礼法について」

夕食後は、休憩をはさんで、塾長の「日本の伝統文化と礼法について」をテーマに、“立礼”“正座”“座礼”の仕方と意味について、実践も交えての講話があった。国際社会の中で日本人がリードしていくことの重要性を語られた。



○ 創作劇を挑戦しよう『同窓会ごっこ』

午前中考えた創作劇の発表会では、市長や銀行支店長まで現れ、地下鉄も整備された未来の石巻を語るものなどなかなかの出来栄だった。三陸河北新報社の大谷記者を審査委員長に厳正なる審査も行われ景品も手渡された。



○ 宿泊研修 2日目の活動

○ 旭山登山・コロボックルハウス清掃

二日目は、夜明け前の違う空気を体感しようと旭山への登山を午前4時30分に決行した。前日の予想では降雨100%だったが、このときだけ雨がやんだ。前日登りやすいようにと下草刈りを自ら行った塾長の念力が通じたようだ。残念ながら山頂からの景色は見えなかったが、すがすがしいスタートを切ることができた。下りると同時に小雨模様になったので、旭山の清掃活動を取りやめ、館内清掃に切り替えた。日常なかなか手の届かない梁の煤や換気扇の汚れ落としなど自分たちが使った全館をくまなく掃除した。

○ 「石巻の魅力を発信していく 映像コンテストと講演会」の紹介

朝食後の班活動前には、「石巻・川の上プロジェクト」の皆様から、『石巻の魅力を発信していく 映像コンテストと講演会』の活動内容や紹介が行われた。



○ 班別活動 2

その後、全体発表前の確認・リハーサルが各班で行われた後、各班から発表があった。発表が一方通行とならないように、発表を聞いた塾生からいくつかのメッセージ（資料省略）が寄せられた。



（6）平成 26 年度 第 8 回 『耕人塾』

〔日 時〕 平成 26 年 9 月 20 日（土）18:30～20:30

〔場 所〕 石巻専修大学 2 号館 2 階 2206 教室

〔テーマ〕 ガーナが私にくれたもの

〔講 師〕 本田 美希子氏（石巻市立二俣小学校 教諭）

〔活動内容〕（省略）



（7）平成 26 年度 第 9 回 『耕人塾』

〔日 時〕 平成 26 年 10 月 18 日（土）18:30～20:30

〔場 所〕 石巻専修大学 2 号館 2 階 2206 教室

〔講 師〕 志小田 美弘 氏（宮城県仙台教育事務所
副参事・教育班長）

〔テーマ〕 生きて在ることの充実 一歩きながら考えて
きたこと

○ 講話「我的世界」と「我々の世界」を生きる（省略）



(8) 平成26年度 第10回 『耕人塾』

〔日 時〕 平成26年11月15日(土) 18:30～20:30

〔場 所〕 石巻専修大学5号館 3階学生ホール

〔テーマ〕 一期一会

〔講 師〕 石田 邦子 氏(表千家教授)

〔活動内容〕

- 講話「一期一会」(省略)
- 茶道体験(茶道のお点前披露)



(9) 平成26年度 第11回 『耕人塾』

〔日 時〕 平成26年12月20日(土) 18:30～20:30

〔場 所〕 石巻専修大学5号館 2号館2階2205教室

〔活動内容〕

- 塾長挨拶
- 第3期『耕人塾』を振り返って
- 【講評】運営委員山崎省一教授



耕人塾という場で、このメンバーで一年間活動してきたこと、そのものがすごいことだと思う。同じ時間を共有することができることもかけがえのないこと。震災があったからこそ会えた人、関わったことがある。それもかけがえのないもの。意味のあることであり、これからの人生に意味のあることと考えたい。今こうして、皆で集まること、活動することは、互いに会わなければ始まらなかったことで、出会いという要素はとても大切なことである。人として大切なもの、日本人として大切なものは、人とつながることだ。『世界に誇れる…』というとても大きなものに感じると思うが、実は「人とつながる」という普遍的な心がけが大切なことである。

第3期修了証授与

- 【塾長より】

いつでも陰で支えてくれて
いる人がいる。そして、その
一つ一に思いが込められてい
るのだ。世界に誇れる石巻
は、その足元にある。それ
は、挨拶・掃除など基本的な
ことをしっかりしていくことが世界に誇れる効果的な手段
なのではないだろうかと述べて一年間を締めくくった。



Ⅲ 成果と課題

1 成果

- (1) 統一テーマを「世界に誇れる石巻をつくろう」としたことで、『耕人塾』で目指す活動の方向が明確になった。さらに、班でのテーマを設定することにより、各班のリーダーを中心に具体的な実践事項について話し合い、塾生の主体的で多様な活動につながった。
- (2) 宿泊研修では、自然豊かな環境の中で、創作劇への挑戦、日本の伝統文化と礼法、清掃活動、各班での発表など多様な活動をすることができた。また、夜の花火大会やレクリエーションを通じて塾生同士、塾生と指導者との心の交流が図られた。
- (3) 後半の研修会では「国際理解：ガーナが私にくれたもの」、「スポーツ：生きて在ることの充実」、「伝統文化：茶道・一期一会」の講話を聞き、班ごとの討議が活発に行われた。その中で、中・高校生の塾生と指導補助員の大学生が互いに切磋琢磨しながら成長していく姿が見られた。

2 課題

- (1) テーマが大きすぎて、班ごとのテーマを決めるのに多くの時間を要した。また、それぞれの班の取り組みがどう「世界に誇れる」ことに結びつくのかということが明確でなかった。
- (2) 活動の深さと共に、塾生にとっても指導者にとっても「ワクワクドキドキ」した魅力を追求したが、研修や活動の準備の負担感の割には楽しさを創出するまでには至らなかった。

Ⅳ まとめ

第3期『耕人塾』は前年の反省を生かし、11回の活動回数は変えないで、活動期間を5月～12月とした。8ヶ月の中で11回の研修はハードではあったが、多くの方々の協力によって塾生の成長という大きな成果を得て終了することができた。運営委員、指導委員、指導補助員、協力者、講師の先生方、支援していただいた方々、物心両面で支えていただいた石巻専修大学に心から感謝したい。

東日本大震災からの真の復興のためには、若い人材が必要不可欠である。今後も「石巻地域の中・高校生の人間力を磨き、地域社会に貢献する人材育成」のため、『耕人塾』を継続していきたい。ご協力ご支援いただいた方々に改めて感謝申し上げ、報告としたい。

<塾生及びスタッフ>

- 1 塾生：星澤岬（石商3年）、高橋凌（石商3年）、渥美登武（石商2年）、高橋倫平（好文館2年）、宮本愛与（仙台育英1年）、鎌田弘斗（渡波中3年）、高橋昇吾（渡波中3年）、土井うたの（石巻中3年）、遠藤加奈子（稲井中3年）、岡樹里（稲井中3年）、岡香里（稲井中3年）、森田七海（中田中3年）、鈴木勇太郎（矢本二中2年）、相澤玲久（矢本二中2年）、相沢咲希（仙台二華中2年）、大橋珠麗（矢本一中2年）、若生智香（稲井中2年）、佐々木歩美（矢本二中2年）、伊東賢祐（住吉中3年）
- 2 運営委員：木村民男、田中秀典、山崎省一、有見正敏、新福悦郎、千葉純、齋藤幸男、平塚隆、末永勘二、井上一、千葉克彦、千葉一夫、相澤浩美
- 3 指導委員：平塚真一郎、宮崎敏明、酒井勝則、村岡太、稲辺正浩、若生孝之、大友佳也、鈴木克典、前田尊央、三浦美紀、本田美希子、菅井秀成、畠中隆廣、阿部宏弥、菅井龍成、須田佑介、中澤宏一、川村瑞隆、高橋富宥
- 4 指導補助員：太田廉、佐藤礼佳、菅原栞菜、末永恵奈、阿部智子、大箱柚依、板垣大和、阿部愛
- 5 協力者：石田邦子、志小田美弘、横江信一、舩田育久、新井雅之、今野幸夫

